頑張るしかない

校長　海江田　修　誠

人の心には二面性がある。たとえば楽天的に対して悲観的という言葉が浮かぶ。コップに注いだ水が半分になった時に，「まだ半分ある。」と思うか，「もう半分無くなった。」と思うか，人それぞれタイプの違いもあるだろうし，同じ人でもその時によって，楽天的になったり悲観的になったりする。似たような言葉に前向き，後ろ向きという言葉もある。どちらが良いとか悪いとかはその時の事情があり言っても仕方のないことであると思うが，悲観的に物事を考えるより前向きに考えられれば，それに越したことはないと思う。ただ，この前向き，楽天的という心の働きも複雑である。たとえば，切羽詰まり始めて覚悟を決めないといけないときに楽天的であれば，「明日がある。（今日は休もう。）」と逃げる気持ちになってしまう。もっとも「今日は休もう。」と開き直ることができるのであれば，それはそれで大切な心の働きだと思う。

教師は「頑張る」という言葉が好きである。最近はストレスマネイジメントの観点から「頑張らなくていい。」ということも盛んに言われる。その意味も充分に理解できるのだが，私もやはり「頑張る」という言葉が好きである。「頑張る」の語源をたどると「我張る」「眼張る」ということらしい。最近はあえて「顔晴る」と書く書き方もあるそうだ。鹿児島弁で「気張れ」と言うのも，東北弁で「けっぱれ」と言うのも意味は同じで，「頑張る」とは「（気を張って）自分の気持ちや考えをしっかり持ち，困難に打ち勝って，事を成し遂げること」である。

なぜ「頑張る」ことが好きかと言えば，これまで生きてきた中で，ささやかではあるが「頑張って事を成し遂げた」時の心の晴れやかさを経験しているからだ。それが積み重なって自分の芯を形成してきたという実感がある。そういう経験を生徒にも味わってもらいたい。だから，生徒には「頑張れ，頑張れ」と言い続けるつもりだ。しかし，いつも気を張って頑張れという道徳観を求めているわけではない。大切なことは「何のために，どう頑張るのか。」ということである。時には弱音を吐くことも頑張る戦略の一つであれば大いにけっこう。教師の立場としては，やみくもに「頑張れ」と言うことが生徒のストレスを過剰に高めてしまうことも考えなければならないし，一方で，客観的にみればたいして頑張っているわけでもないのに，頑張っているつもりになっている楽天的な生徒を，現実に引き戻すこともしなければならない。

さて，３年生である。大学入試までの期間を「まだ○か月ある。」と思うか，「もう○か月しかない。」と思うか，あなたはどちらだろうか。大学合格を成し遂げるためにどう頑張るのか，自分のこととして考えられるかどうかだ。合格するためにしなければならないことは山ほどある。覚えなければならない英単語は6,000語とも言う。明日があるからと今日は休むのか。今日休んでも結果を得られれば一番良いのだろうが，今日を休む人は，結局，最後まで言い訳をして終わるんだろうなと思う。それもまたその人が選択した人生ではある。

下の詩は，卒業生（66期生）の国公立後期試験の直前，生徒が書いて学級日報に載っていたものである。ここに書かれたことを実感として自分の感覚にするには，やはり頑張るしかない。悔いの無い１年にしてほしいものである。

がんばってきた君がいる
本格的に受験勉強を始めた6月
初めは長時間椅子に座ることがつらくて
逃げ出したくなるのを
気合いと根性で乗り越えて
がんばってきた　君がいる
勝負の2学期　結果の2学期
思うように成績が伸びずに
心が折れそうになった　君がいる
それでも　「第一志望校合格」を心に念じ
眠い目をこすりながら机に向かい
シャープペンを握り
夜遅くまで　死にものぐるいで
勉強を続けてきた　君がいる
お盆休み　クリスマス　お正月
休みたい気持ちをおさえ
机に向かい続けた　君がいる
3学期　喜怒哀楽のドラマを演じながら
受験校決定の決断をした　君がいる
そしてすべてを決戦の日の一刻のためにかけ
がんばり続けてきた君がいる
そんな君が負けるはずがない
あきらめるはずがない　やれないはずがない
君は決して1人ではない
毎日お弁当を作ってくれ
君とともに悩み
励まし続けた家族がついている
ともに努力を続けた友がいる
勉強の炎は誰にでも灯せるものではない
だからこそ　炎を灯している君は
負けてはいけない
一心に炎を灯し続けなければならない
君の炎は無敵の炎だ
合格の2文字を確実なものにするまでは
その努力の炎を絶対に消してはならない
あと1週間　全力で駆け抜けろ！
みんなと甲南高校第66期で出会い
共に夢を追い続けた日々を
私は絶対に忘れません